



消防 鹿児島

発行所
 始良市平松6252番地
 鹿児島県防災研修センター内
 一般財団法人 鹿児島県消防協会
 電話 (0995) 64-5401
 FAX (0995) 64-5402
 編集者 鹿児島県消防協会



一般財団法人 鹿児島県消防協会 総裁
 鹿児島県知事 塩田 康一

年頭に際して

新春を寿ぎ、謹んでお慶びを申し上げます。

消防団員並びに消防職員の皆様におかれましては、日頃から地域住民に対する火災予防思想の普及・啓発に努められるとともに、消火や救急など厳しい任務を迅速・的確に遂行され、県民の皆様お一人おひとりの安心・安全な暮らしの確保に多大な貢献をされています。

また、地震・津波や水害など災害時には、人命救助はじめ応急対策等に献身的に従事され、県民の皆様の尊い生命と貴重な財産の保護に大きく寄与されています。

昼夜を問わず常に第一線で消防・防災活動に御尽力いただき、心より感謝申し上げますとともに、たゆまぬ御努力に深く敬意を表します。

また、昨年十月に開催された第二十九回全国消防操法大会ポンプ車の部において、本県代表の中種子町消防団の皆



一般財団法人 鹿児島県消防協会
 会長 内大久保 清志

新年のごあいさつ

令和五年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

消防職員及び消防団員の皆様、関係機関・団体の方々には平素より当協会に対し格別のご支援、ご協力を賜り、心よりお礼を申し上げます。また、地域の安全・安心を守るため、日夜献身的にご尽力されている皆様に対し深く敬意と感謝の意を表します。

昨年九月、鹿児島島に上陸した台風十四号は、鹿児島地方気象台から鹿児島島で初めてとなる特別警報が発表されました。けがをされた方、住宅被

害や農作物被害が多く発生しました。また、七月の大雨では、時間雨量八ミリを超え雨量が県内各地で観測されています。

火山活動も活発でありました。昨年七月に桜島南岳山頂火口で爆発が発生し、大きな噴石が火口から約二、五キロメートルまで到達しました。鹿児島県は多くの活火山を有しており、いつ火山災害が発生するかわかりません。

私たち消防関係者は、地域防災の要として、地域の住民から厚い信頼と期待を受けていることを常に念頭に置きな

様が県勢で初めて優勝を獲得されました。本県の優れた消防力を全国に明示する機会ともなり、県民の皆様も誇りとされ、また大変心強く感じられたことと思います。同消防団の皆様の御功績に改めて敬意と感謝の意を表します。

近年、地球温暖化の影響等によって世界的に自然災害が頻発・激甚化する中、昨年、我が国では、東北・北陸地方を中心とする線状降水帯によって広い範囲の記録的な大雨に甚大な被害が発生しました。

本県においても、台風第十四号や相次ぐ集中豪雨によって多くの地域で住家や道路・港湾等の公共施設が多数損壊するなど、重大な被害が発生しました。

県におきましては、過去の

がら、いつでもどこでも起こりうる災害から住民の生命と財産を守るため日々精進を重ねることが大事であります。

さて、昨年は、新型コロナウイルス感染症が引き続き続くなか、感染対策を行いながら事業を実施しました。

昨年三月、ニッショウホールで開催された第七十四回日本消防協会定例表彰式において、阿久根市消防団が消防団として最高の荣誉である特別表彰「まとい」を受章されました。

また、昨年十月、千葉県消防学校で開催された第二十九回全国消防操法大会ポンプ車の部に本県代表として中種子町消防団が出席されました。小型ポンプの部を含めて、県内で初めてとなる優勝という輝かしい成績を収められました。

鹿児島県消防協会会長として、大変喜ばしい限りであり、関係の皆様にも深く感謝申し上げます。

ところで、本県の消防団員数は、年々減少し、昨年十月一日現在では前年の同時期より二二一人少ない一四、七八八人となっています。その内訳は、男性団員は二五人減少し、一四、一四一人、女性消防団員も六人減少し、六四七人となっています。消防団員の減少、高齢化が進行しており、消防団員の確保、とりわけ若年消防団員の加入促進を図る必要

わが町の消防団活動

「日本消防協会特別表彰「まとい」」を受章して



阿久根市消防団 団長 中村 主税

阿久根市は、鹿児島県北西部に位置し、市内の中心部を流れる高松川河口の阿久根漁港を中心に古くから海上・陸上交通の要衝として海運業・商業などで栄えたまちです。北部は激流が渦巻く日本三大急流のひとつ黒之瀬戸を隔て長島町と東部は出水市、南部は薩摩川内市と接しています。東シナ海に面した約四十キロメートルにも及ぶ美しい海岸線や沖合およそ二キロメートルに浮かぶ阿久根大島は、海水浴や釣りの名所として知られており、毎年多くの観光客が訪れます。

沿岸を流る黒潮は、至るところに亜熱帯の植物を育み、温暖な気候を利用した農業や水産業が盛んです。品質の高い数多くの生鮮品や加工品は、「アケネウマイネ 自然たね」の統一ブランドで全国に向けて出荷されており、中でも特産品の「阿久根ポントン」をはじめ、大将季（だいまさき）や紅甘夏など柑橘類は全国有数の生産量を誇ります。

阿久根市消防団は、明治二十七年二月に私設阿久根村消防組織として発足し、大正十四年一月に消防組、昭和十四年には警防団と改称を行い、昭和二十二年に施行された消防団令に基づき、昭和二十七年四月一日に現在の消防団として発足いたしました。また、平成二十五年には女性消防隊を発足させ、消防活動の一層の充実強化を図っております。

現在は八分団（二十二班の二〇八名（令和四年四月一日）で構成し、消防ポンプ自動車六台、小型動力ポンプ積載車二十台、防災活動車（団本部車）、防災広報車（女性消防隊車）の陣容により地域防災の中核として地域に根差した消防団活動を行っております。

当市消防団は、火災・風水害等の防ぎよ活動はもとより、年間計画に基づき、常備消防と連携し、火災予防運動期間中の合同訓練をはじめ、車両積載資機材を使用した基本訓練、そして各種災害に対応すべく、日々、高度な技術の習得に努めております。また、令和二年度には、特定小電力トランシーバーを各分団に配備し、現場活動のみならず、消防団行事などでも活用することで、指揮命令系統の強化を図っております。我々消防団の根拠とも言える火災予防に対する広報活動は「地元から絶対に火を出さない」という理念の下に、団員全員が高い防火意識を持ち活動しております。

新型コロナウイルス感染症の第二波が日本全体で猛威を振るう令和二年七月、鹿児島県内は記録的な大雨に見舞われ、当市におきましても県内初となる大雨特別警報が発令されました。大雨による警戒活動から土砂災害の対応を含め、計九日間総員二〇〇名の団員が市民の安心安全を確保するために尽力いたしました。その結果、人的被害もなく早急な災害復旧へとつながることができました。

結びになりますが、阿久根市消防団は、このたびの「まとい」受章の荣誉を誇りに、これからも市民の安心安全を守り、より一層の消防活動に邁進してまいります。

また、今回の受章にあたり格別のご高配を賜りました日本消防協会、鹿児島県消防協会をはじめ、阿久根市消防団を日々支えていただいている皆様にも深く感謝申し上げます。



がります。

消防職員、消防団員の皆様におかれましては、これから地域住民の信頼と期待に応えるため、一致団結して士気の高揚と技術の練磨に努められるようお願い申し上げます。

年頭に当たり、消防職員、消防団員及び関係の皆様のご健勝とご活躍を心からお祈りいたします。

全国消防操法大会に参加して

中種子町消防団 中央分団長 寺田 健夫

中種子町は種子島の中央部に位置し、農業・畜産が盛んな町です。その中で我々、中央分団が管轄している野間地区は島の交通の要衝であり、島を縦断する国道・県道はすべて本地区を經由しています。

今回コロナ禍で行われた熊毛地区消防操法大会へ中種子町代表として出場しました。要員達は初めての大会でしたが持てる力を存分に発揮した結果、地区大会を制し、その勢いのまま県消防操法大会でも優勝、鹿児島県代表として四度目の全国大会出場の切符を手に入れました。操法訓練は規律を重視したものであり、築き上げてきた経験を基に、要員各番手に経験者をコーチとして配置し、要員と共に日々試行錯誤しながら技術の向上を図ってきました。今回の全国大会は、実施要領によると実践を意識した操法、審査になるとされ、「集まれ」と「収納」での集合線に整列する動作が見直されたため、乗車後の「操作始めから火点を倒す」までの一連の操作の精度とスピードを重視することにしました。

全国大会は小型ポンプの部二十四チーム、ポンプ車の部二十一チーム、来賓、関係者合わせて約三千人が千葉県消防学校に集まり開催されました。これまでの地方大会は審査員、関係者はいたもの、これほど大勢の観客がいる前で行う操法は要員達にとって初めてでした。全国大会会場では誰もが緊張する中、指揮者は三度の全国大会出場経験があるかなのか落ち着いた様子に見えました。しかし、要員達は操法で初めての番手、ましてや初めての操法というのもあり、練習通りにできるかな



消防人生を振り返って、想うこと

前鹿児島県消防協会長 諏訪 義則

昭和五十年三月二十五日、地域を守るという崇高な使命への不安を抱えながら東町消防団に入団し、令和四年三月三十一日に退団するまでの四十七年に及ぶ消防人生はあつという間であったと感じています。

入退団式の謝恩会でいきなり一升の焼酎を注がれ、苦しみながら飲み干す東町消防団中央分団の洗礼でスタートした消防団活動の初期の頃は、消防操法に懸命に取り組んでおりました。

鹿児島県消防操法大会の優勝を目指し、何にも願わず朝・夕と訓練に励みました。私の出場したポンプ車の部での優勝という目標は達成できず、悔しい気持ちは今でも心に残っています。しかし、同様に切磋琢磨し努力した同僚の小型ポンプの部が優勝した時は、心の底から嬉しい気持ちでいっぱいでありました。ここまで全力を傾けて何かを成し遂げようとした当時は、身体的にはとてもつらいものがありました。その同じ想いの同志とともに活動したことが四十七年の消防人生の礎だと思えます。

平成四年に分団長、平成七年に副団長に就任し、分団や団を預かることとなって責任の重さをひしひしと感じました。特に平成十年、団長を拝命した際の全団員の活動に責任を負う重圧は、これまでの人生の中で経験のないものでした。

幸いに東町消防団は、先輩達から継承された消防団員としての心構えが脈々と受け継がれており、団員教育等は充実しております。

私は、活動中の団員の安全の確保と地域、町当局及び常備消防、支部、県消防協会との連携強化などを優先させることに責任を負うことで、団長の任務を果たす決意を持つことができました。

平成十八年三月十八日、長島町と東町の合併で新たな長島町消防団が発足し、団長を拝命、鹿児島県消防協会では理事を務めることとなりました。平成二十五年には鹿児島県消防協会会長に就任致しました。人口一万人程度の小規模消防団で県消防協会長を務まるか不安ではありましたが、周りの大きなサポートで日本消防協会の副会長まで職することができました。

県消防協会の仕事をする中で、全国の消防団の現状、課題などを詳細に目にする事となり、消防団も時代の変化に即した改革を推進する必要性を強く感じ、長島町消防団長として、女性消防団員・機能別消防団員の創設・確保・充実、資機材の充実、報酬制度改革など、これまでの消防団の体制を大きく変える改革を進めてまいりました。未来につながる消防団組織の構築のため、長島町消防団の指針となる改革を推進してきました。後進も同様に今後も改革を促進していただけたと思います。

四十七年の消防人生を振り返ると、「一人」に恵まれたことで長年消防団を続けることができたと思っております。入団当時の頼もしい先輩や同僚、分団・団幹部時代の信頼のおける仲間、協会役員として活動する際の事務局や同僚理事の皆様、それぞれ叱咤激励、助



言、指導など様々な立場で私の消防人生を支えていただきました。また、消防操法に明け暮れた団員時代から県消防協会会長、日本消防協会副会長となって全国を飛び回る事となった退団時まで、全力で支えてくれた家族、この「一人」に支えられて四十七年間、消防団員として地域の安全安心に心血を注ぐことができたこと深く感謝しています。

消防団員は、地域の皆様の信頼により崇高な使命を全うすることができず。後輩諸君も「一人」のつながりを大切に、より一層地域の皆様に信頼・安心していただくよう精進してください。

最後に、鹿児島県の全消防関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

第二十七回全国女性消防団員活性化 徳島大会に参加して

さつま町消防団

団本部女性部長 新 留 里 美

令和四年十二月二十二日、徳島県徳島市において開催された女性消防団員活性化徳島大会に、さつま町消防団女性部として消防署員、班長と共に参加させていただきました。

ようこそ！藍の国・愛の国とくしまへ「女性パワーを盛り上げ大きな大きな渦へ！」を大会テーマに三年越しの思いを込めて盛大に開催されました。今年も例年より規模が縮小され、全国三〇〇団体、約一、二〇〇人の参加がありました。会場は全国から集まったやる気に満ちた女性消防団員で賑わっており、活動内容や特色などを展示しているコーナーでは、オリジナルソングに合わせたダンスの紹介、防災グッズの展示や活動内容が写真で紹介されており、どの消防団も楽しく活動している様子が伝わってきました。

ステージでは防火防災啓発劇の発表や講演、各地の女性消防団員の活動事例発表もあり、様々な活動の中で女性団員の役割の重要性を学ばせていただきました。

活動事例発表者とのパネルディスカッションの中では、①消防団員入団促進については、消防団員の勧誘よりも消防団をみんなに知ってもらう事が優先、②消防団に少しでも興味がありそうな人にはこちらから連絡してみる。また活動では、出来る事を出来る時に得意分野を生かして、コミュニティセンターや小学校に出向き地域に根付いた活動を行っているとお話しされました。全国の女性消防団員が、本当に様々な取り組みをしているということを知って、私達のこれからの活動の幅を広げる為にも、とても有意義で勉強になる気づきのある大会でした。また、

全国の沢山の方々と交流ができた事を深めることが出来たので、参加して良かったと思えました。記念講演では元女子マラソン選手で消防応援団でもある有森裕子さんの『よろこびを力に！』と題したマラソン選手として頑張ってきた原点についてお話がありました。初めて見た徳島県の郷土芸能、圧巻の阿波踊りに鳥肌が立つほど感動し、大会が締めくくられました。最後に、今大会への参加に向けてご尽力いただいた、鹿児島県消防協会をはじめ、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



第四十五回全国消防職員意見 発表会「最優秀賞」を受賞して

薩摩川内市消防局 鶴 永 淳之介

今回、全国消防職員意見発表会で最優秀賞を受賞する事が出来ました。受賞前と受賞後で、私が辿った経験や感情を記したいと思えます。

一昨年、西之表市で開催された鹿児島県消防職員意見発表会に出場。自分を変える機会になればと、初めて臨んだ意見発表でした。元々、人前で話すとなると極度に緊張してしまう私にとって、意見発表なんて…と今迄は敬遠していました。(そんな自分を変えたい)と、まずは妻を相手に発表、ビデオを撮ってもらい、自分の発表態度や表情を確認することから始めました。結果には驚きありませんでしたが、逆にこれが私の心に火を付けました。

そして昨年、原稿作りから気合を入れ、上司の指導を仰ぎながら、今度こそはと県大会に臨みました。緊張は頂点でしたが、昨年は地元薩摩川内市が県大会の会場。同僚職員が駆け付けてくれ、背中を押す沢山の手となってくれました。発表に入ると、スウツと肩の力は抜け、自然に発表に入ることが出来ました。重ねた稽古が報わられるのです。

九州では勝ち上がれるとは思いませんでしたが、負ける気もしない、不思議な感覚でした。審査員長の講評で、私の発表文はニュース原稿と一緒に結論が先にあって、その後内容を述べている。発表技術もアナウンサーに似ている聞きやすいものだった。と褒めていただき、すごく嬉しかったです。

こうして勝ち獲ることが出来た悲願の全国大会では、堂々と発表するはずでした。会場は横浜市パシフィコ横浜。発表者全員が集まる控室は、誰も話さずピリピリ感が充満していて、最終発表者の私はこの中に一番長く居ることに。私の番となり、ステージへ向かう時の事はあまり覚えていない程でした。発表中は、(この意見発表もこれで最後。)と腹を括り、(これ迄で一番の発表を。)とその一点に絞り、集中していました。

終わった直後、(やり切った!)という達成感。(結果がどうであれ、今迄の練習の成果を出し切れた!)という充実感は、今後味わうことはもう無いと思います。審査発表時、「最優秀賞は十番、九州地区」とアナウンスが流れた瞬間、体の奥からこみ上げたそれは、涙となって流れていました。

思えば、原稿作成から発表準備など、二年間にも亘り親身に丁寧なアドバイスをしてくださった上司。発表練習をする際に、本番に近いように聴衆役として発表を見守ってくれた同僚達。大会出場直前では集中出来るようにとソフトに配慮くださった署員の皆さん。本当にたくさんの方々に支えられて、「最優秀賞」を獲得することが出来たんだと心底感じました。

余談ではありますが、受賞後、私の新聞記事を、八十歳を過ぎた祖母が大事に財布の中に入れておくと聞き、孝行できて良かったと思うことも。私の発表タイトルは「心に届く言葉」でした。正直、消防吏員

として、社会人としてもまだまだ知識・経験不足で、実際には配慮が行き届いていないなと感じることばかりです。しかし、未熟なりにも「相手の立場や気持ちを考える言葉選び」というテーマをブレずに、座右の銘として、仕事には勿論プライベートでも、意識して生きていこうと自分に誓っています。

最後にこの寄稿で、私にとつての大切な経験を振り返る事が出来ました。最後まで読んでくださり、ありがとうございました。

第十一回 令和三年度 「防災川柳コンクール」 入賞作品

最優秀賞 (二句)

○使わずに
済めば感謝の
備蓄品
(佐々木 美知子)

優秀賞 (三句)

○避難する
手順と場所を
壁に貼る
(宮ちゃん)

○いつかくる
今日かもしれない
その「いつか」
(刹那)

○備えある
日々を家族と
分かち合う
(ゆきうさぎ)



今年度も現在募集中です。皆さんふるって応募ください。応募方法は、鹿児島県防災研修センターのホームページをご覧ください。
【締切】令和五年一月三十一日



生活協同組合全日本消防人共済会が「消防団、明るく元気な地域とともに」をテーマに募集した第二十二回全国中学生「防火防災に関する」作文コンクールの入賞作品十一点（最優秀賞二点・優秀賞二点・佳作七点）が決定しました。本県からの入賞者は次のとおりです。

「防火防災に関する」 作文コンクール入賞作品

優秀賞 父の姿

長島町立鷹巣中学校
二年 石元 笑愛

私の父は消防団に入って活動しています。その父の仕事が私の思っていた以上に大切なものだ、つい最近知りました。

今から三年前、私が小学生のとき、大雨が降りました。今年も雨が降って危険だね、と母と話していたころ、父は大きな雨粒の降る中、地域を回って「気をつけてください。」と声をかけていました。そしてその夜、さらに雨の勢いがひどくなる中、家族で寄り添って眠っていると、突然両親に叩き起こされました。避難するというのが、移動中の車内では、不安でドキドキしてとても怖かったです。ふと見ると、父がいまいません。みんなで避難していたはずなのに。すると、私たちの車に並んだ車内から父が顔をのぞかせました。

「早く避難所に行つてね。お父さんは様子を見てくるから。」
そう言つて、もと来た道を戻ろうとしました。するとその瞬間、父の車の前で崖が崩れ始め、坂は滑り、山から水があふれ出てきました。父が死んでしまったらどうしよう、そう思った私は、気づいたときには叫んでいました。

た。よかった、よかった。お父さんが生きてる！
思い返すと、昨日の父はいつもはあまり見せない真剣な顔をしていました。この地域を守るといふ思いと、消防団としての責任感がそうさせたのでしょうか。雨が止んでからも、消防団を中心に、道路の落ち葉を掃いたり、たまった水を排出したりして、地域のために活動をしていました。私たちも手伝いました。ふと顔を上げると、地域のみんなが片付けに参加していました。大変な思いをしたばかりでしたが、声を掛け合いながら協力して一緒に片付けをするみんなの顔は笑顔でした。それはみんなでのこの困難に立ち向かった連帯感や無事だったという安心からくるものでしょう。その笑顔の中に父の姿もありました。みんなの笑顔を支えたのは、父たちのような消防団なのです。危険な中でも率先して動き、みんなのために活動した父の姿を誇らしく思いました。

両親のように、周りの人を支えられる人になりたい。そう思うきっかけはこの出来事でした。私は、自分のことに精一杯でなかなか周りのことまで目が行かず、気づけないことがよくあります。でも、少しずつでも地域の人が笑顔で過ごせる毎日のために、自分なりに考えて、両親の姿をまねて、活動していきたいと思いました。地域の笑顔のために頑張る父のようになろう。

佳作 僕らの街の消防団をいつまでも

いちき串木野市立羽島中学校
一年 上 裕紀

「ピンポンパンボン、〇〇地域で火災発生。〇〇分団は出動してください。」
こんな放送が防災無線から聞こえてくると僕はどきどきとする。僕の住む羽島地域にも羽島分団がある。団員さんたちは楽しい人が多く、近所の酒屋さん、電気屋さん、友達のお父さんも団員だ。普段はあまり意識しないが、意外と身近に消防団の人たちがいてくれる。その人たちが、いざ火災が起こると自分の仕事を後回しにして高速で消防服に着替え、消防詰めに集合し消防車で出動して火事の初期消火に当たる。普段は陽気で、僕らに冗談ばかり言ってくる人たちがだ、火事を消し止めた話を聞くとすごい人たちだなあと思う。

「ピンポンパンボン、〇〇地域の〇〇の火災は鎮火しました。」
この放送を聞くとほっとする。羽島分団が出動したときには、学校から煙が見えていた。だから、授業中だったけれど、おじさんたちはけがをしないかな、もう火は消えたかなと気が気ではなかった。いちき串木野市には市役所の近くに消防署が、その先に分遣所がある。しかし、僕の住む羽島は、市役所からおおよそ十km、消防車も救急車も到着まで十五分はかかる。十五分だとかかなり燃え広がってしまうかもしれない。でも、地域の消防団ならその半分以下の時間で消火が始められる。ここが地域に消防団がある最大の利点だと思う。

ところで、どんな街にも消防団があるのかと思いついてみた。すると、日本全国いろいろな街に消防団があって、今日も地域の災害や火災に立ち向かっていることがわかった。そういえば、前に住んでいた坊津にも分団があつて出動していた。その前に住んでいた十島村の宝島にもあつて学校での避難訓練や消火訓練に協力してくれた。そこでは青年団の人たちが消防団員だった。父は、甌島に住んでいるときに消防団の消火活動を間近で見たことがあり、消防団の人が燃え上がる炎に立ち向かっていき、素早く消火をする姿を見て驚いたそう。僕は父の仕事で引越して何回もしているけれど、どこに行っても消防団の人たちに守られていたんだなと改めて思う。

しかし、今、消防団の高齢化が進んでいるらしい。令和二年の記録では、いちき串木野の団員の平均年齢は約四十七歳、三割は五十歳以上だ。三十歳未満の割合は約一割。地方では、過疎化の問題もあつて新しく消防団員になる人が少なくなっているという話も聞いた。消防団の人たちは、頼りになる人たちだから、火事するとき以外にも、地域の活動や伝統行事などに欠かせない大事な役割も果たしている。地域を盛り上げていくための大きな存在だ。僕は、親の仕事の都合で同じ街に長くは住めなけれど、その土地その土地で活躍する消防団を応援していきたいと思う。そして、いつか大人になつたとき、自分の住む街の消防団員になつて地域を明るく元気にしていきたい。

消防の仲間が支える
個人年金消防個人年金に加入を

将来の自分の為の
積立年金制度です

掛金25口2,500円で、56%以上の焼損の場合
火災共済金375万円のお支払い
風水雪害等共済金付
1500倍補償

まさかの時
お役に
立ちます！

消防団員・消防職員ならどなたでも加入できます